

健康・福祉関連の経営情報誌
フィットネス コレクション

fitness

COLLECTION

2008
WINTER
Vol.39

特集

最新 「業態」と「運営手法」



メディカル最前線

ビビットいきいき健康倶楽部

[東京都板橋区]

人気上昇の住宅地でコンセプトは「フィットネスwithメディカル」

「概念としては、メディカルフィットネスというより、フィットネスwithメディカルです」

ビビットいきいき健康倶楽部（以下ビビット）の柳沢伸一マネージャーはいう。

東京都板橋区、JR浮間舟渡駅の目の前。地上30階地下1階建て、高さにすれば100メートルを超すスリムな「アイタワー」が、“気をつけ”をしている。板橋区の北にあたる舟渡は、東で北区に隣接し（浮間は北区の町名。駅舎が両区にまたがるため、浮間舟渡の駅名になった）、荒川の向こうは埼玉県戸田市だ。古くから工業の発達した地だったが、1985年に国鉄（現JR）埼京線が開業すると、新宿から約20分、大宮や東京からも約30分という交通の便のよさから、徐々に住宅地へと生まれ変わっている。現在でも、浮間公園などの緑の多さや閑静さが人気で、中・高層マンションの建設が盛んだ。

充実したメディカルのサポートが前提にあって

02年に完成した高層タワーマンション・アイタワーも、駅前の再開発によるものだ。低層階にはテナントが入るが、居住部分の総戸数では150を超える。そのアイタワー3階に位置するのがビビットと、同じ板橋中央総合病院グループのアイ・タワークリニックだ。医療法人社団明芳会・板橋中央総合病院は、56年に開設された。現在では、病床数579という規模になり、地域の信頼も厚い。アイタワー内に附属クリニックの開設が決まった



02年、浮間舟渡駅前の再開発として完成したアイタワー。地上30階建て、100メートル超の威容を誇る。所在地は板橋区だが、すぐ東が北区になる。駅前には楼の名所として知られる浮間公園があり、また河川敷のゴルフ場も近い。それでいて東京や大宮が30分圏内とあって、落ち着いた住宅地として人気が高まっている地区だ

とき、ひらめいたのがフィットネスクラブとの連携というスタイル。そこで招へいされたのが、当時からメディカルフィットネスに取り組んでいた柳沢氏、というわけだ。

開設以来6年。当初は、会員種別を一般とメディカルに細分化するなどしていたが、試行錯誤しつつたどり着



有酸素マシンはほかにも人気のジューパーなどがそろっている



各種の資格を持ったスタッフから、きめの細かい指導が受けられる



スタジオのプログラムは、スロ もものからリズム系まで



ヒットしたのは、定休日を利用したキッズスクール



スタジオからは、裏通しでジムが見える

メディカル最前線 ビビットいきいき健康倶楽部

いたのがフィットネスwithメディカルという考え方だった。柳沢氏はいう。

「むろん、病院のグループですから、メディカルのサポートは充実しています。入会前の問診、カウンセリング、タイミングを見ての測定・評価……ですから、クリニックとビビットは入口こそ別ですが、内部では行き来できる連絡通路を確保しています。もちろん、病院から運動療法を勧められて入会する方もいらっしゃいます。ことに生活習慣病の予防や改善、あるいは整形外科的な運動器の疾患ですね。その場合は、ドクターとコミュニケーションを密にとって、指導していくことになります。

ただ一方で、あまりにメディカルを前面に押し出すと、一般の方が誤解しやすい面もありました。確かに、どこも悪くない人がいきなりメディカルといわれると抵抗がありますよね。事実はそうじゃないのに、“患者さん以外は入れないのか”“リハビリ専用か”……。むしろ、そういう方

を幅広く受け入れていきたいんです。まずはフィットネスがあり、そしてもしなんらかの障害が生じたら、メディカルとの太いパイプを生かして対処していければいい。

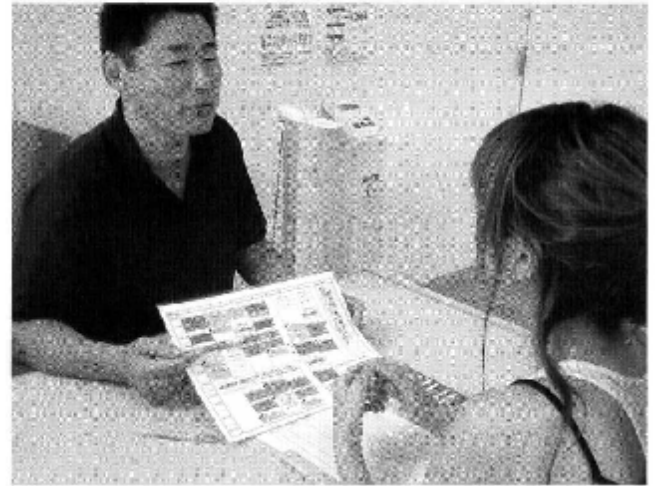
たとえば“最近、血圧が気になるんだよね”“ちょっとヒザが痛いよ”という会員さんがいたら、“診てもらったらどうですか”。われわれも健康運動指導士ですから、ある程度の疑問には答えられますが、専門的な分野になったら、やはりドクターにゆだねるほうが万全じゃないですか。つまり、フィットネスが先にあって、そこからメディカルと連携していく。ですから、フィットネスwithメディカルなんです」

医療との連携があるからこそ 安心のオプションプログラム

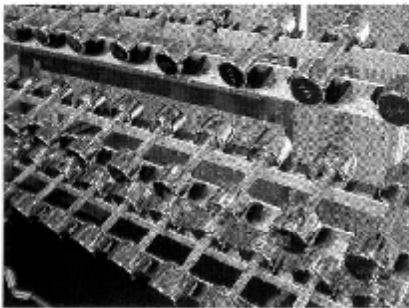
施設そのものは、さほど大きくはない。ただその適度な



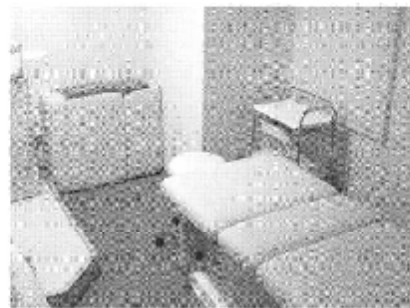
板橋区の委託により、施設に出向いくの運動指導も行う



運動開始時には、コンシェルジュによるカウンセリングが



フリーウェイトも各種そろそろ



休憩スペースにはマッサージチェアが



男女のロッカールームには、それぞれシャワーも

規模が、フィットネスwithメディカルにとってはメリットだった。知識とスキルを持ったスタッフが多く、きめの細かい対応ができること。オプションとして、パーソナル指導やメディカルチェックが用意されていること。マタニティピクスやダイエット教室などは、メディカルとの連携があるから受講者も安心だろう。また、隣接するクリニックの待ち時間に利用することも可能だ。

新しい取り組みもある。

「交通の便がよく、若い夫婦も多く住むようになったため、子どもの数が多いんです。そこで、従来だったら木曜が定休だったんですが、木曜限定でキッズとジュニアの各種スクールを始めました。最初は1クラスだったのが、好評のため4クラスに増えています。

さらに板橋区の委託事業として、介護予防のための運動指導、老人ホームやデイサービスセンターに出向いての軽い運動の指導も行っています。試行錯誤をしな

がら、われわれ独自のプログラムもどうやら確立しました」（柳沢氏）

浮間舟渡エリアは、もとは荒川が蛇行して流れていた地域で、28年に直線化された。そのときに残ったのが、駅前すぐにある浮間公園の浮間ヶ池だ。そのため現在でも、エリア全体が四方を川に囲まれており、周辺には競合施設が進出しにくい。つまりそれだけ、住民にとってピビットが貴重な存在というわけだ。アイタワーの150世帯のうち、1割弱が会員というから、今後さらにマンションの建設が進めば、ピビットが地域に果たす役割はますます大きくなる。

館内には、クラブで定期的に行うイベントの写真が貼ってあった。ホノルルマラソン、ゴルフ、変わったところでは、寝台列車・カシオペアの旅……会員相互の密着度の高さがうかがえる。フィットネスwithメディカル。いい、かもしれない。